

ジャズクラブ集中

「ディキシランドジャズ」の街、ニューヨークに別ありがたかった。ちょっと名前をあげてみるの中心地、ニューヨークと、「ハーフトーン」「ウィリに生まれて初めて降り立ったのは、六四年八月二十七日だった。何しろこれは、大好きな「ビバップ」が生まれたところだから、まるで子供のよう

▽13△

名作ばかりのLP



だが、旅装を解く間ももどかしく、夜の十時にホテルを飛び出して、真っ先に目ざしたのは、52番街の「バードランド」である。(こは映画「バード」でも見事に再現されていた。パーカーゆかりのジャズクラブで、数知れない「モダンジャズ」の傑作もおなじみの、あこがれの店なのだ。

# いまなおしびれる パウエルのピアノ



チャーリー・ミンガスと共演するバッド・パウエル君

をつくり出した人。あの守安さんが、生涯かけて追求し続けたピアノリストであるのに加え、僕自身も当時はもちろん、今も相変わらず、そのピアノにしばしばはなした人なんだから。

に、残したLPのすべてが、珠玉の名作ばかりという天才ではあったんだけど。そんなパウエルも、悲惨な生活から立ち直るために、五九年、家族とパリに移り住み、ヨーロッパの自由な空気に、再び創作意欲に燃え、アメリカ人のすき間から身を乗り出して、せり上がったスエルは、二年後の六六年七月、

階段を下りてドアをあける。その後、今日まで、二度と。中は掃箒を待ちわびていたファンで、ぎっしり身動きもままならぬさま。左手に長く続かカウンスター前の立見席に何とかもぐり込み、でかいアメリカ人のすき間から身を乗り出して、せり上がったスエルは、二年後の六六年七月、

声を合わせて、そのメロディを口ずさむのだ。その後、今日まで、二度と見たこともないその温かい光景に、僕は思わず流れ落ちる涙をぬぐっていた。

後に、「死を迎えるために帰って来た」といわれたパウエルは、二年後の六六年七月、

入りに口にとりついて僕は驚いた。何と偶然だったんだのかねえ。出演「バッド・パウエル・トリオ」(ほかにホレス・シルバー・クインテット)とあるではないか。パウエルといえは、パーカー、ガレスピー、モンクと手をたずさえて、「ビバップ」

これはあまり褒められたお話ではないけれど、映画を観の方は「承知の、あのパーカーそっくりに、パウエルもまたアル中と麻薬常習の上、何度も精神錯乱で病院に収容されているんだねえ。でも、その狂気の合間を縫うよう

「何と偶然」と書いたのは、僕がニューヨーク入りしたわずか十日前、突然、五年ぶりにヨーロッパから帰郷して、古巣「バードランド」に迎えられていたからな

温かい光景に感動

「何と偶然」と書いたのは、僕がニューヨーク入りしたわずか十日前、突然、五年ぶりにヨーロッパから帰郷して、古巣「バードランド」に迎えられていたからな

に、あのパウエルがいた。それはとてつもなく大きな存在感だった。

その夜、僕はさわやかな感動に包まれながら、十二時を過ぎた路上に出たが、そこで願ってもない体験をする

一日十時以下という、当時でも格安なのが選んだ理由の一つだが、そこは「ワシントンスクエア」が目と鼻の先で、ジャズクラブのほとんどが集中していた「グリニッチ

「バード」でも見事に再現されていた。パーカーゆかりのジャズクラブで、数知れない「モダンジャズ」の傑作もおなじみの、あこがれの店なのだ。

これはあまり褒められたお話ではないけれど、映画を観の方は「承知の、あのパーカーそっくりに、パウエルもまたアル中と麻薬常習の上、何度も精神錯乱で病院に収容されているんだねえ。でも、その狂気の合間を縫うよう

「何と偶然」と書いたのは、僕がニューヨーク入りしたわずか十日前、突然、五年ぶりにヨーロッパから帰郷して、古巣「バードランド」に迎えられていたからな

に、あのパウエルがいた。それはとてつもなく大きな存在感だった。

その夜、僕はさわやかな感動に包まれながら、十二時を過ぎた路上に出たが、そこで願ってもない体験をする

(内田 修)